122選手が河畔の風に

九頭竜トライアスロン大会

参加の全員が完走

青空が広がり、夏の名残のような強い日差しが降り注いだ初秋の十日、吉田郡松岡町の九頭竜川サイクルロードなどを会場に、第二回九頭竜トライアスロン大会があった。福井鉄人会（梁下進会長）の主催で、「君よ、九頭竜河畔の風になれ」が大会テーマ。東京、大阪、徳島など県内外から参加した十二歳から五十六歳までの男女百二十二人の選手が体力の限界に挑んだ。

レースは同町浜谷の松岡海洋センターのプールで一・〇五㌔を泳いだ後、九頭竜川までの五㌔をランニング。さらに自転車に乗って九頭竜川サイクルロードを四十㌔走り、また五㌔をランニングして同センター前に帰ってくる。コースで競い合った。

本来のトライアスロンに比べると約四分の一の距離。申し込みのあった約三百五十人の中から初心者を優先して選ばれた選手全員が、無事に完走した。

「完走することが目的。順位はつけません。みんなが優勝です」と荒川勝・鉄人会事務局長。完走した「鉄人」全員がトロフィーと賞品をもらった。最初にゴールインした京都市中京区西ノ京小倉町、立命館大二年関英二さん（〇）は「トライアスロンは初めて。五月から毎日十㌔走り、週二回全力で一㌔を泳いで、今日に備えました。最後五㌔走るのがきつかったけれど、だいたい思った通りにいきました。満足です」とうれしそうに話していた。

ヘルメットとシューズをすばやく身につけ、自転車に飛び乗るトライアスロンの選手たち＝吉田郡松岡町神明二丁目の九頭竜川サイクルロードで

鉄人、残暑と〝格闘〟

松岡で大会 県内外122人挑む

第二回九頭竜トライアスロン大会（福井鉄人会主催、福井新聞社後援）は十日、松岡町の海洋センターを発着地点に繰り広げられた。厳しい残暑の中、全国から女性十四人を含む百二十二人が水泳、自転車、マラソンを組み合わせた過酷なレースに挑戦した。

コースは海洋センター内にあるプールを使って一・〇五㌔を泳ぎ、同町の九頭竜川に架かる五松橋下流までの五㌔をマラソン。そこで自転車に乗り換え、川沿いの片道十㌔のサイクルロードを二往復、再び同センターまで戻る総延長五一・〇五㌔。実際のトライアスロンは水泳三・九㌔、自転車百八十㌔、マラソン四二・一九五㌔となっており、今大会はショートタイプとして企画。

参加者の八割が東京、大阪、愛知から来た県外組。午前九時のスタートの合図で、参加者は三十人ずつ四組に分かれ最初の水泳に挑んだ。この後トレーニングウエアに着替えマラソン、ヘルメットをかぶり自転車へと進んだ。途中給水所が数カ所に設けられ、参加者の中には頭から水をかぶり「よーし」と気合を入れ直して再び走り出したり、家族や友人の声援に手を振ってこたえる豪傑も見られた。

今回表彰はなく、完走者全員にトロフィーが贈られた。東京から参加した新屋敦子さん（二）は「大学の先輩に誘われて出場しました。自転車からマラソンに替わるとき、疲れて足が動かなかったが、何とか完走できてホッとしています。来年もぜひ参加したい」と顔をほころばせていた。

給水所で水を受け取りスタートするトライアスロン参加者